



しょう むか めいおうせい 衝を迎えた冥王星

去る、7月24日、冥王星が「衝」を迎えました。「衝」とは、惑星が太陽と正反対の位置に来ることです。つまり、冥王星のように地球より外側に軌道を持つ惑星の場合、真夜中に南の空の高いところに見えるというわけです。

冥王星は1930年にアメリカのトンボーによって発見され、2006年までは、惑星の一つとされていました。つまり、太陽系の惑星の数は9個とされていたのです。ところが、海王星の外側に、小さな天体（なかには、直径2000 kmにも及ぶそこそこ大きい天体も含まれますが）が数多く発見されると事情が変わってしまいました。これらの天体はその存在を予言した二人の天文学者、イギリスのエッジワースとアメリカのカイパーの名前をとって、「エッジワースカイパーベルト天体」と呼ばれます。冥王星は、大きさや軌道の傾きから、エッジワースカイパーベルト天体の一つと考えられるようになったのです。その結果、これまで知られていた惑星、衛星、小惑星、彗星の定義をしっかりと組み立てなおそうということになり、新たに設けられた「準惑星」に、冥王星は分類されることになりました。

冥王星は、発見されてからまだ100年経っておらず、太陽の周りをまだ半周もしていません。明るさが15等と肉眼では見えない事、惑星ではなくなったこと、名前も「黄泉の国の王」という意味であることなどから、何となく地味な印象を与えます。

冥王星は、現在はやぎ座にあって、ゆっくり運行しながら、2039年3月15日、みずがめ座へと移動します。



2015年アメリカの探査機ニューホライズンが接近して撮影した冥王星の姿。Image Credit : NASA/Johns Hopkins University Applied Physics Laboratory/Southwest Research Institute